説教20220612ヨハネの黙示録４章　ヨハネによる福音書16：5-15「真理の霊とは」

「真理はあなたたちを自由にする。」この言葉は、今の世で大変有名で、あちこちの大学の壁に掲げられているそうです。この言葉は聖書から取られた言葉で、ヨハネ福音書８章32節に書いてあります。

確かにこれはイエス様の御言葉であり、まことにアーメンなのですが、しかし、私たちはこの言葉の前に書かれてある言葉も切り離さないで、一続きの御言葉として聞かないと、ひょっとすると誤った信仰へと導かれかねません。ヨハネ福音書８章31節からをお読みします。

イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」

これがイエス様の語られた一続きの御言葉です。この「わたしの言葉にとどまるならば、」というのが、前提になっています。その意味は、私の言葉すなわち私イエスを信じるならば、ということで、イエス様は、先ず何よりも最初に私を信じなさい。と言っておられるのです。そしてその信じるということは、子どもの様に、ただ、私を信じなさいということです。そうしてそのように私を信じた時、あなたはわたしに近しい者とされ、あなたは真理を知り、自由にされる、とイエス様は言われているのです。それはなぜかといいますとイエス様こそが真理であり、イエス様は全ての真理を最初から知っておられるからです。

例えば、ガリレオは、この地が動いて回転しているという一つの真理をある時、見出しましたが、その真理は、イエス様が最初から知っておられたことでした。

ここで最初に戻りますと、「真理はあなたたちを自由にする。」という御言葉を、イエス様を全く知らない新入生が、なんの説明もないままに聞いたとき、真理というものがあり、それは客観的に誰が見ても真理であり、誰にとっても当てはまり、人間を偏見や間違いから解放し自由にするものだという風に、彼は解釈してしまうことになりかねません。

事実、今の世の中で、多くの人々が、真理というものをそのように解釈し、そのように信じているのではないでしょうか。でも、私たちは今のポスト真実、ポストtruthと言われている時代に際して、客観的ではない、イエス様の真理の方に目を向けていきたいと願います。

といいますのは、客観的な真実というのは、必ずしも私たち人間を良い方向に導かないからです。例えば、ペンテコステ前の主日に説教しました、使徒言行録１６章16節からで、女占い師が悪い霊に取り付かれて、パウロ達に「この人たちは、いと高き神の僕で、皆さんに救いの道を宣べ伝えているのです。」と申しました。この女占い師の言葉は嘘ではありません。真実であります。彼女は真実を述べたので、この言葉は一定程度の力をもっていたのです。私たちも「この人たちは、いと高き神の僕で、皆さんに救いの道を宣べ伝えているのです。」というように言われたら、悪い気はしないのではないでしょうか。言葉巧みにそんな風に言い寄られ続けたら、自らもこの悪い霊の虜になってしまうかも知れません。いいようにおだてられて、自分自身をいと高き神の僕としてほめたたえてしまうことになってしまうかもしれません。

でもこの占い師に決定的に欠けていたのが、イエス様を信じるということでした。イエス様を信じる私たちは、決して教会でこの様な物言いはしないものです。そうして私たちは決して自分自身を賛美することがないのです。では私たちは誰を賛美するのでしょうか。それは今日のヨハネ黙示録４章に書いてある通りです。ヨハネ黙示録４章10節からです。

二十四人の長老は、玉座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの冠を玉座の前に投げ出して言った。「主よ、わたしたちの神よ、／あなたこそ、／栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を造られ、／御心によって万物は存在し、／また創造されたからです。」

イエス様の真理により、私たちが自由にされるということは、イエスの正義の前に私たちが打ち砕かれて、罪赦されて、へりくだらされ、自らの誉れを投げ捨てて、イエスの栄光をほめたたえる者にされるということなのです。

今日のヨハネ福音書の箇所で、イエス様は、十字架上での自らの死が近いことを悟って、弟子たちに残していく言葉を語られました。この地上でイエス様は一人のまことの人間として、私達人間に必要な言葉をこの様に残されたのでした。

コヘレトの言葉7章 8節に次の様に記されています。

事の終りは始めにまさる。

この地上にあっては、何事にも終わりが来るものですが、私たちはその終わりに際して、主から祝福され、そうして残る人たちに言葉を残して、自らは新しい土地へと向かうのが幸いであります。イエス様自身も、その生き方を私たちに身を以って示されたのでした。イエス様は十字架上で「まことの神、主よ、御手にわたしの霊をゆだねます。わたしを贖ってください。」と父なる神に言って、息を引き取られました。

あがなうというのは、聖書にあって、大変重要な語句ですが、それは、罪をあがなうという意味の贖罪のショクの字でもあります。あがなうとはどういう意味なのでしょうか。それは今の世でいえば、親族が親族に対して扶養義務を果たすということです。そして、そこには二つの性格があって、一つは、めん鳥が雛を羽の下で養育するように情愛に満ちた仕方であり、もうひとつは、エジプトで奴隷であった神の民が買い戻されるといった経済的な営みによるもので、この二つは、贖いを説明するうえで特徴的な性格です。父なる神は、イエス様に対して、我が子よと言って、情愛に満ちて、イエス様を身もとへと引き寄せて下さったと同時に、経済的な面からも、御自分の右にイエス様の住むところを用意して下さったのでした。

そして、今や、イエス様ご自身が、この地を去るにあたって、私たちの最も近しい親族として私たちをあがなおうとされています。私たちもこの地を去る時、主イエスよ、私をあがなって下さいと言えば、主イエスが私をあがなってくださいます。主イエスが私を情愛深く引き寄せて下さって、そして天の国で用意されている住まいへと導いて下さるのです。

主イエスが、この様に私たちをあがなって下さるということも、主イエスの真理一つでありますが、では、この真理を、主イエスは私たちに対してどういう風にお伝えになるのでしょうか。それは今日の１６章７節からに記されています。

しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る。

この弁護者というのは、聖霊のことです。そしてその弁護者である聖霊は真理の霊であり、その真理の霊が来ると、あなた方を導いて真理をことごとく知らせる、とあります。ここでも、真理というものが、聖霊という三位一体の神様によって語られるということが記されています。

復活されたイエス様は、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。」と言い残して天に昇られました。そしてイエス様を信じる私たちが、聖霊に満たされてこの世を歩むとき、真理は、私たちの理解力に応じて、その隠された姿をあらわにされるのです。ヨハネによる黙示録の黙示というのは、この真理が露わにされるという意味であります。

今日のヨハネ黙示録の４章には、二通りの解釈があって、既に天上にいるヨハネが更に天の奥に続く門の前に立っているという解釈と、地上にいる者たちが天を見上げて開かれた門を見たという解釈があります。このことは主イエスの真理の在り方をよく言い表しています。主イエスの真理は、最後のキリストの日に至るまで、誰の目にも完全に明らかにされることはなく、その日まで、私たちには理解できないことが多いのです。ですから、この4章も、これこそが正解といった解釈は未だに定められないのです。でも、私たちは真理の霊である聖霊に満たされて、この4章を読む時、少しづつ少しづつ、主イエスの真理をあらわにされることでしょう。少なくとも今日のところは私たちは先ほどお読みしました4章10節からを、各々の心の内に銘記しておきたいと思います。

さて主イエスの真理、そして聖霊が語る真理とは、何なのでしょうか。それが今日の説教題でもありますが、それはつまるところ、私たち人間をあがなわれる神の愛であります。私たちは聖霊に満たされますと、主イエスが御自分の体を差し出して、私たちをあがなわれたことを悟らされます。復活された主イエスは、私たちを情愛を込めて引き寄せ、そして各々の住まいを用意してくださいます。

　これが主イエスの真理であります。ヨハネの時代のギリシャ哲学者は、キリスト者が説く、このような真理を相手にしないで、軽んじていました。自分たちの説く高邁な真理こそ価値あるものだと言って高慢にふるまう人も多かったそうです。

しかし、キリストの真理というのは、真理御自身であるキリストのことですから、哲学者が考え出したと思っているその真理をも飲み込んでいることでしょう。単純に考えても、真理というものが一握りの頭がいい人たちの間でしか分かり合えない代物だったとしたら、一体その真理というのは何なのでしょうか。

真理の霊は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。と13節には記されています。つまり真理というのは、忠実に人から人へと語り継がれるようにされることがここには記されています。同じ事が次の世代へと忠実に語り継がれていくのです。そこには、個人の発想の斬新さや、奇抜さが求められているのではないのです。その代わりに、私たちが真理を悟るために求められるのが、忠実さ、主イエスを信じて、へりくだって主イエスに従っていくということであります。

真理の霊に見たされている私たちは、この世の誤りを見抜くことが出来るようにされています。私たちはイエス様の姿が見えないからと言って、ではイエス様はいないのだと思ってしまう罪に陥ることはありません。又、この世で罪ある行いが、罰となってブーメランの様に我が身に帰ってくることも知っています。この様に聖霊に満たされた私たちは、主によってあがなわれ、幸いなる日々を送ることを許されておりますが、聖書に書いてあるとおり、真理に目が開かれた私たちが、この世との葛藤の中で試練を受けることも又、事実であります。でもその試練をも、真理の霊はチャンスとして用いて下さり、更に深い真理を私たちにあらわして下さることでしょう。

この一週間も私たちが真理の霊に満たされて、その働きを身をもって味わっていくことが出来ますように祈ります。

お祈りします

父なる神よ、この聖霊降臨後第一主日に、私たち兄弟姉妹を御前に集め、共にあなたを礼拝賛美出来ます幸いに感謝します。

あなたは、私に真理の霊を注いでくださいます。真理の霊は御子キリストの真理と愛と平和です。どうか私たちがキリストを信じ、キリストの真理を深く知っていくことが出来ますよう、私たちを恵んで下さい。

あなたは、御子イエスを私たちの最も近しい親族として、一人ひとりに与えて下さいました。最後の完成の時に、私たちを永遠の命へと、あがないだしてくださるイエスキリストの愛を、私たちが深く知っていくことが出来ますように。

又、あなたは、この世に、主の平和を実現される方です。どうか、私たちにそのことを悟らせ、私たちがこの世の噂話に惑わされることなく、あなたの声に聴き、あなたの御心を深く知っていくことが出来るようにしてください。常に、聖書の御言葉に立ち返り、私たちがつまらない争いごとに関わることがないように教え導いて下さい。

今の世には、争い、分裂、戦争が満ちています。あなたを悲しませるこれらの出来事を前にして、私たちはあなたの平和を作りだすことに奉仕することが出来ますように。あなたの憐れみと慈しみの御手は、いつも私の避けどころとなり、私を守って下さいます。どうか私たちがあなたの救いの御手を信じて、大胆に、あなたの愛の業を行っていくことが出来ますように。

父と聖霊と共に一体であって世世に生き